



～ノーリフトポリシー～

海外では、介護者が利用者を抱きかかえて移乗したりすることを法律で禁止している国もあります。「ノーリフトポリシー」とは、オーストラリアで実践されている抱えない介護を指します。労働人口の減少が進む日本においても重要な働き手が適切ではない介助方法で腰を痛めたり、体力的な負担を感じ介護の仕事を諦めてことがあります。また、利用者の怪我に繋がってしまうこともあります。

リハビリセンター白鳥では、介助者・利用者双方の負担軽減の為、立ち上がりや移乗をサポートする機器を4台導入しております。導入に際しては利用者が使用して不安になる事はどうか？といったところなのか？機器を使用する事での痛みはないか？など、職員がまず体験し、操作方法も勉強します。勉強を通じて、利用者の立場に立った機器の使用方法を学ぶ事ができます。

こういった取り組みを通して、機器の導入を進め腰痛を訴えたり、体調不良で休む職員が減りました。今後も、利用者・職員共に誰もが犠牲になることなく安全に過ごしていただけるように進めていきたいと思えます。



リハビリセンター白鳥の今をお伝えするニュースを、定期発行させていただきます。
是非、お目通しください。

リハビリセンター白鳥 職員一同